

安心・安全な日常生活空間の実現のために

(研究期間：平成30年度)

建築研究部 基準認証システム研究室

研究員 津留崎 聖斗 研究官 伊藤 圭祐 室長 村上 晴信



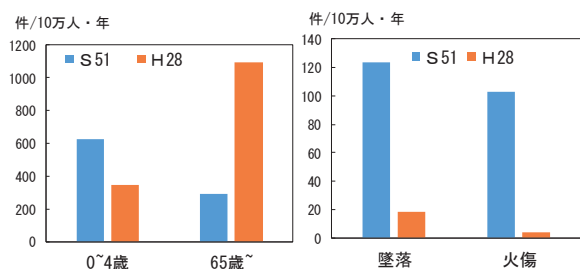
(キーワード) 建物内事故、転落・転倒、救急搬送データ、事故予防チェックポイント

1. はじめに

建物の廊下で転ぶ、階段から転落するなどの日常生活における建物内での事故が増加しているが、これらの事故の中には、建物の設計者、管理者の不注意による場合もある。このため当研究室では、平成21年度より建物設計者向けに日常生活における建物事故の事例、安全対策を集積した「建物事故予防ナレッジベース」¹⁾をWeb上で公開している。平成30年度は管理者・利用者への情報提供の強化として、救急搬送データから最近の事故傾向の分析を行ったほか、一般の方でも取り組むことができる事故予防チェックポイント集の作成を行った。

2. 救急搬送データの分析

平成28年(2016年)の東京消防庁管内における救急搬送データから最近の建物内事故の傾向を分析した。40年前(昭和51年(1976年))と比較すると、全体的に乳幼児の事故発生率(件/10万人・年)が大幅に低下し、高齢者は上昇した。特に、乳幼児において、墜落、火傷の事故発生率の低下が顕著で、墜落防止対策の充実や暖房機器等の安全対策の充実によるものと考えられる。



(1) 建物事故全般

(2) 墜落、火傷

図1 事故発生率(昭和51年、平成28年の比較)

注) 墜落：ベランダなど高所から落下すること

3. 事故予防チェックポイント集の概要

マンション管理組合向けに、マンション内での墜落、転倒、転落事故を予防することを目的としてチェックポイント集の作成を行った。作成にあたって、「建物事故予防ナレッジベース」上のマンションに関連する事故や予防策を活用するとともに、マンション管理士会連合会、マンション管理業協会へのヒアリングから得られた意見を参考にした。分譲マンションを対象にしているが、住宅全般に共通する事項も多い内容となっている。



こんな事故が起っています

- ※事例1 住民が屋上に落ちた枝葉などを拾う作業をした際、手すり(柵)がなかったため地面に落下した。
- ※事例2 1歳の子どもの、自宅6階バルコニーの手すりのすき間から落下した。
- ※事例3 2階バルコニーで、住民がバランスを崩しアルミ製手すりに掴まったところ、手すり子部分が脱落し一緒に落下した。
- ※事例4 1歳の子どもの3階の自宅居間でカラーボックスと段ボールによじ登り、出窓の網戸を押して遊んでいるうち網戸と一緒に落下した。

図2 チェックポイント集の抜粋「墜落防止手すり」

4. 終わりに

「建物事故予防ナレッジベース」は主に報道された事故事例をもとに構築している。今後は日常事故予防に努める他団体とも連携することで予防策も含めて広く情報収集し、よりよい情報の発信を行う予定である。

☞ 詳細情報はこちら

1) 「建物事故予防ナレッジベース」

<https://www.tatemonojikoyobo.nilim.go.jp/kjkb/>